【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和5年10月5日(2023.10.5)

【公開番号】特開2022-9391(P2022-9391A)
【公開日】令和4年1月14日(2022.1.14)
【年通号数】公開公報(特許)2022-006
【出願番号】特願2021-172806(P2021-172806)
【国際特許分類】
Ｃ０９Ｊ181/02(2006.01)
Ｃ０９Ｊ 11/06(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０９Ｊ181/02
Ｃ０９Ｊ 11/06

【手続補正書】
【提出日】令和5年9月26日(2023.9.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
下記（Ａ）成分、（Ｂ）成分、及び（Ｃ）成分を含有する接着剤層を有するデバイス用硬化性接着シート。
（Ａ）成分：ビニル基を有するポリフェニレンエーテル樹脂
（Ｂ）成分：末端に二重結合を有する炭化水素基を２つ有する化合物
（Ｃ）成分：オレフィン系単量体由来の繰り返し単位のみからなる重合体を含むバインダー樹脂
【請求項２】
下記（Ａ）成分、（Ｂ）成分、及び（Ｅ）成分を含有する接着剤層を有するデバイス用硬化性接着シート。
（Ａ）成分：ビニル基を有するポリフェニレンエーテル樹脂
（Ｂ）成分：末端に二重結合を有する炭化水素基を２つ有する化合物
（Ｅ）成分：シランカップリング剤
【請求項３】
前記（Ｂ）成分が、複素環骨格を有する化合物である、請求項１又は２に記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項４】
前記複素環骨格が、イソシアヌレート骨格又はグリコールウリル骨格である、請求項３に記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項５】
前記（Ｂ）成分の分子量が、１，０００以下である、請求項１～４のいずれかに記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項６】
前記（Ａ）成分の含有量が、前記接着剤層中、１０質量％以上である、請求項１～５のいずれかに記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項７】
前記（Ａ）成分の含有量が、前記接着剤層中、１０～４０質量％である、請求項１～５

のいずれかに記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項８】
前記接着剤層が、さらに下記（Ｃ）成分を含有する、請求項２に記載のデバイス用硬化性接着シート。
（Ｃ）成分：バインダー樹脂
【請求項９】
前記バインダー樹脂が、反応性官能基を有する樹脂である、請求項８に記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項１０】
前記（Ｃ）成分の含有量が、前記接着剤層中、４０～８０質量％である、請求項１、８および９のいずれかに記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項１１】
前記接着剤層が、さらに下記（Ｅ）成分を含有する、請求項１に記載のデバイス用硬化性接着シート。
（Ｅ）成分：シランカップリング剤
【請求項１２】
前記接着剤層が、環状エーテル基を有する化合物を含有する層、又は、環状エーテル基を有する化合物を含有しない層であって、環状エーテル基を有する化合物の含有量が接着剤層中５質量％未満である、請求項１～１１のいずれかに記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項１３】
前記接着剤層が、２５℃において液体の化合物を含有する層であって、２５℃において液体の化合物の含有量が、接着剤層中５質量％以上である、請求項１～１２のいずれかに記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項１４】
２５℃において液体の化合物の少なくとも１種が、末端に二重結合を有する炭化水素基を２つ有する化合物である、請求項１３に記載のデバイス用硬化性接着シート。
【請求項１５】
末端に二重結合を有する炭化水素基を２つ有し、かつ、２５℃において液体の化合物の含有量が、２５℃において液体の化合物の全量中９０質量％以上である、請求項１４に記載のデバイス用硬化性接着シート。